

# 分析結果報告書〔1〕 1 / 4

## 1. 1 大気試料 (PM2.5抽出液試料) (アニオン成分:イオンクロマトグラフ法)

イオンクロマトグラフ法で分析した場合、この分析結果報告書〔1〕記入する。  
吸光光度法等のイオンクロマトグラフ法以外では、分析結果報告書〔2〕に記入する。

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(カド25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( ) 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

項目	分析の実施 注1)	回数	分析結果 (μg/m <sup>3</sup> ) 注1)	
			検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
塩化物イオン	1. 実施 2. 実施せず	1回目		
		2回目		
		3回目		
硝酸イオン	1. 実施 2. 実施せず	1回目		
		2回目		
		3回目		
硫酸イオン	1. 実施 2. 実施せず	1回目		
		2回目		
		3回目		

注1) 大気1m<sup>3</sup>に相当するフィルターに水1.5mLの割合で添加して調製した抽出液試料とし、分析結果は大気中の各イオンの濃度(μg/m<sup>3</sup>)として記入する。

記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。

分析を実施した場合、「分析結果」(「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」)を記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

「塩化物イオン」

分析開始月日	月	日	
分析終了月日	月	日	
分析方法	1. イオンクロマトグラフ法 <del>2. イオン電極法</del> <del>3. その他( )</del>		
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他( )		

「硝酸イオン」

分析開始月日	月	日	
分析終了月日	月	日	
分析方法	1. イオンクロマトグラフ法 <del>2. 還元蒸留-インドフェノール青吸光光度法</del> <del>3. 銅-カドミウム還元-ナズルエチレンジアミン吸光光度法</del> <del>4. 流れ分析法</del> <del>5. その他( )</del>		
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他( )		

「硫酸イオン」

分析開始月日	月	日	
分析終了月日	月	日	
分析方法	1. イオンクロマトグラフ法 <del>2. タロム酸バリウム吸光光度法</del> <del>3. その他( )</del>		
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他( )		

# 分析結果報告書〔1〕 2 / 4

<イオンクロマトグラフ法の測定条件：塩化物イオン>

試料の希釈	希釈倍率 ( ) 注4)
イオンクロマトグラフ メーカー	1. ダイオネクス (サーモフィッシャーサイエンティフィック) 2. 島津 3. 日立 4. 東ソー 5. その他( )
型式 区分	( ) 1. 電気的サブレッサー (電気透析形) 2. 電気的サブレッサー (電解形) 3. 化学的サブレッサー 4. ノンサブレッサー
再生液(サブレッサー用)	5. その他( ) 1. 使用しない 2. 使用する (硫酸溶液) 3. 使用する (その他: )
検出器	1. 電気伝導度 2. 分光光度 3. その他( )
分離カラムの種類	1. AS12 2. AS14 3. AS17 4. AS18 5. AS19 6. AS20 7. AS21 8. AS22 9. AS23 10. IC-SA 11. SI-904E 12. その他( )
移動相 (溶離液の種類)	1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナトリウム溶液 4. 炭酸水素ナトリウム溶液 5. その他( )
流量	( ) mL/min
カラム温度	( ) °C
注入量	( ) μL

注4) 試料の希釈倍率を記入する。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<イオンクロマトグラフ法の測定条件：硝酸イオン>

塩化物イオンの測定条件との違いがない(同じ条件で測定する)場合には、下記を記載しなくてよい。  
違いがある場合には、下記に測定条件を記載する。

試料の希釈	希釈倍率 ( ) 注4)
イオンクロマトグラフ メーカー	1. ダイオネクス (サーモフィッシャーサイエンティフィック) 2. 島津 3. 日立 4. 東ソー 5. その他( )
型式 区分	( ) 1. 電気的サブレッサー (電気透析形) 2. 電気的サブレッサー (電解形) 3. 化学的サブレッサー 4. ノンサブレッサー
再生液(サブレッサー用)	5. その他( ) 1. 使用しない 2. 使用する (硫酸溶液) 3. 使用する (その他: )
検出器	1. 電気伝導度 2. 分光光度 3. その他( )
分離カラムの種類	1. AS12 2. AS14 3. AS17 4. AS18 5. AS19 6. AS20 7. AS21 8. AS22 9. AS23 10. IC-SA 11. SI-904E 12. その他( )
移動相 (溶離液の種類)	1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナトリウム溶液 4. 炭酸水素ナトリウム溶液 5. その他( )
流量	( ) mL/min
カラム温度	( ) °C
注入量	( ) μL

注4) 試料の希釈倍率を記入する。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

<イオンクロマトグラフ法の測定条件：硫酸イオン>

塩化物イオンの測定条件との違いがない(同じ条件で測定する)場合には、下記を記載しなくてよい。  
違いがある場合には、下記に測定条件を記載する。

試料の希釈	希釈倍率 ( ) 注4)
イオンクロマトグラフ メーカー	1. ダイオネクス (サーモフィッシャーサイエンティフィック) 2. 島津 3. 日立 4. 東ソー 5. その他( )
型式 区分	( ) 1. 電気的サブレッサー (電気透析形) 2. 電気的サブレッサー (電解形) 3. 化学的サブレッサー 4. ノンサブレッサー
再生液(サブレッサー用)	5. その他( ) 1. 使用しない 2. 使用する (硫酸溶液) 3. 使用する (その他: )
検出器	1. 電気伝導度 2. 分光光度 3. その他( )
分離カラムの種類	1. AS12 2. AS14 3. AS17 4. AS18 5. AS19 6. AS20 7. AS21 8. AS22 9. AS23 10. IC-SA 11. SI-904E 12. その他( )
移動相 (溶離液の種類)	1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナトリウム溶液 4. 炭酸水素ナトリウム溶液 5. その他( )
流量	( ) mL/min
カラム温度	( ) °C
注入量	( ) μL

注4) 試料の希釈倍率を記入する。希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

# 分析結果報告書〔1〕 3 / 4

<検量線の作成等：塩化物イオン>

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 ( ) ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	最小 ( ) ~ 最大 ( ) 注5) 作成範囲の単位：1. mg/L 2. その他 ( ) ( )
試料の指示値 注6)	1回目 ( ) 2回目 ( ) 3回目 ( )
空試験の指示値 注7)	( )
検出下限値 注8)	( ) mg/L

注5) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) 等を記入する。

注6) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

なお、指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの（例えばピーク高さ）を記入する。

注7) 標準添加法では記入しない。

注8) 抽出液試料中の濃度 (mg/L) に換算した値を示す。

<検量線の作成等：硝酸イオン>

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 ( ) ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	最小 ( ) ~ 最大 ( ) 注5) 作成範囲の単位：1. mg/L 2. その他 ( ) ( )
試料の指示値 注6)	1回目 ( ) 2回目 ( ) 3回目 ( )
空試験の指示値 注7)	( )
検出下限値 注8)	( ) mg/L

注5) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) 等を記入する。

注6) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

なお、指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの（例えばピーク高さ）を記入する。

注7) 標準添加法では記入しない。

注8) 抽出液試料中の濃度 (mg/L) に換算した値を示す。

<検量線の作成等：硫酸イオン>

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 ( ) ( )
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	最小 ( ) ~ 最大 ( ) 注5) 作成範囲の単位：1. mg/L 2. その他 ( ) ( )
試料の指示値 注6)	1回目 ( ) 2回目 ( ) 3回目 ( )
空試験の指示値 注7)	( )
検出下限値 注8)	( ) mg/L

注5) 分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) 等を記入する。

注6) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

なお、指示値は「検量線の最高濃度」、「試料」、「空試験」とも同じもの（例えばピーク高さ）を記入する。

注7) 標準添加法では記入しない。

注8) 抽出液試料中の濃度 (mg/L) に換算した値を示す。

# 分析結果報告書〔1〕 4 / 4

<試料の保存状況>

保存状況 保存方法等 保存時間 注9) 保存温度	1. 冷暗所保存 2. 保存しない(直ちに分析) 3. その他( ) 約( )時間 約( )℃
--------------------------------	---

注9) 時間単位で記入する(例えば、60分では1時間、4日では96時間とする)。

<アニオン成分分析の経験等>

PM2.5抽出液のアニオン成分	1. 分析したことがある 2. 分析したことがない
降水中のアニオン成分	1. 分析したことがある 2. 分析したことがない
環境水、地下水等のアニオン成分	1. 分析したことがある 2. 分析したことがない
参考とした分析方法	1. PM2.5成分測定マニュアルの「イオン成分測定法(イオンクロマトグラフ法)」 2. 降水の分析方法「湿性沈着モニタリング手引き書」 3. 排水の分析方法「JIS K 0102」 3. その他( )

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--